

ふゆ しょくぶつ 冬の植物

❀ ツバキ

ツバキ科の常緑高木、花の形や色は多種

多様であり、花期は一般的に12月～4月に

かけてですが、武家屋敷での見頃は3月～4月

です。花がごろんと落ちる様子が首が

落ちるさまを思わせるとして、

武家に嫌われていたという

話もありますが、定かでは

ありません。

むしろ古くから園芸用に品種改良が

重ねられ、徳川三代（家康、秀忠、家光）をはじめ、武家で愛好されました。

掛け軸、屏風などの画題として描かれることも多く、人々に愛された様子が

うかがえます。



↑ヤエツバキ

→ヤブツバキ



↑コンロンコク

ツバキの一種、コンロンコクは4月～5月に

かけて見頃を迎えます。咲きはじめには、

中央部の花びらが宝珠形に固く巻いている、

特徴的な花です。肉厚で暗紅色の花びらが

「崑崙人」（江戸時代にオランダ人が連れてきた

黒人）を思わせることから名付けられたといわれています。

❁ サザンカ

ツバキ科の常緑低木、晩秋から2月に

かけて花を咲かせます。花はツバキに

似ていますが、散り方は異なります。

ツバキは花が丸ごと落ちるのに対し、

サザンカは花びらを1枚ずつ散らします。

他の花が咲かない、冬の寒い時期に花を咲かせること

から、「ひたむき、困難に打ち勝つ」という花言葉が生まれたといわれています。



❁ ウメ

バラ科の落葉高木、2月下旬～3月にかけて、

5弁の花が咲きます。香りが強く、春の訪れ

を感じさせるウメは詩歌にも詠まれることも多く、

江戸時代には品種改良が数多く行われました。

現在では約300の種類があるといわれています。

また、ウメは鑑賞の対象になるだけでなく、

食材としても重宝されています。梅の実から

作られる梅干しは、古くから

保存食として用いられ、戦国時代には武将たちは傷の

消毒や戦場での食中毒、伝染病の予防にも使用

されていました。

